

1 未来イメージの提示

- 「家」「移動」「仕事」「エンタメ」の各シーンごとに求められる技術・サービスについて、「現在の技術で何ができるか」、課題→解決、「5年、10年後に可能になること」を整理。

2 エビデンスベースの当事者参加型の開発スキーム

- 障害の種類に応じた、**障害者個々人の状態と生活状況等に関するデータ収集と共有化**の仕組みの在り方
- 本データを基にしたICT機器・サービスの開発を促進するとともに、利用者の声を開発者にフィードバックし、**改良を重ねていくための仕組みの在り方**
- 上記運営のための、関連業界・有識者・障害者団体等から構成される**コンソーシアムの在り方**
- 本スキームで開発されたICT機器・サービスの認定制度の創設、**標準化・国際展開の支援方策**

3 障害者等の就労支援

- ICTを活用した障害者の就労機会の多様化実現のための、**特別支援学校等と連携したICTスキルの習得やマッチング等の就労支援の仕組みの在り方**
- ICTを活用した就業後のフォロー方策の在り方

【今回のヒアリング】（厚生労働省、総務省、（株）NTTデータ経営研究所、神戸市、堀込構成員）

- 国による障害者の就労支援施策
- ICTを活用した就労の実現のためのマッチング支援
- ICTを活用した就労のためのICT利活用・スキルの習得支援
- ICTを活用した雇用側の体制整備 等

4 情報アクセシビリティの確保

- 情報及びコミュニケーションツールに関する**アクセシビリティ確保のための制度整備の方針**